

片瀬のぞみだより

日本基督教団片瀬教会付属

片瀬のぞみ幼稚園

2025 年 5 月号

家庭通信 2025 No.5



「ゆっくり やさしく かっこよく」



4月の1か月を経て、幼稚園生活の基礎を獲得しつつある子どもたちは、徐々に自分の力を発揮してきているように感じます。その表出方法は様々で、もちろんわがままで甘えん坊で怒りん坊で泣き虫です。その姿を見せてくれるようになったことに喜び、これからたくさん受けとめていきたいと思います。

さて、今回は「たたかいごっこ」について深めたいと思います。この遊び、その時の状況にもよりますがお母さん方からすると乱暴で危なく、なるべくならしてほしくない遊びではないでしょうか。特に今年のすずめ組の男の子たちは、ひよこ組の時から戦い続けていて、先日の懇談会でも話題になったほどです。たたかいごっこの原点は、やはりヒーローものではないでしょうか。苦戦しながらも悪者や怪獣を必殺技で倒す姿は子どもたちの憧れです。そんな時、幼稚園で同じ気持ちをもった仲間？同志？敵？と出会ってしまったのです。ごっこではなく、〇〇のフリでもなく、只々単純にそれになりきって戦ってしまうのです。「ごっこ」や「ふり」の概念がないのです。しかし、来る日も来る日も本気でたたかい続ける子どもたちは少しずつ痛い思いや嫌な思いもついてくることに気がつき始めます。でも、まだ上手に遊べずいつもトラブルになってお終いのケースが続きました。そんな中、「りゅうせんせい、たたかいごっこしよ！！」とすずめ組の男の子からお誘いが。機は熟した、時が充ちました。心も体もちよっぴりお兄さんになったこの時だからこそ存分にこの世界にのめり込むチャンスが到来してきたのです。いざ、たたかい「ごっこ」の世界にです。まずは様子見です、どこまでごっこができるのか。「さあ、かかってこい！！」と挑発すると全力でかたい武器で攻撃してくる子どもたち、当然「いたーい！！」となります。ここで痛かったこと、危なかったことを子どもたちとしっかり確認します。さらにそのことにより遊びが止まり、楽しかった気持ちが失われてしまった悲しさをつまらなさを子どもたちと実感します。ここに大切な関わり方が3つあります。1つ目は、大人対こどもにしたこと、2つ目は、痛いのは我慢して事後にしたこと、3つ目は遊びが中断し、つまらなくなってしまったことをみんなで共感したことです。

1つ目と2つ目は3つ目に向かうための布石と言っても良いでしょう、とにかく自分のやりたい遊びが続けられなくなってしまったことを経験することが大事だと思います。「じゃあ、どうしよう？」というところで生まれたのが「ゆっくり やさしく かっこよく」のお約束となりました。もちろん、初めからうまくはできませんでしたが、一緒にたたかい、痛みを覚え、何度も遊んでいくうちにカッコいい戦士へと変わっていったのです。今では5色のカラーをそれぞれ身につけ、まるで〇〇レンジャーのようなすずめ組の男の子たち(ちょうど5人でびっくり！！)先生なしでも「ゆっくり やさしく かっこよく」たたかいごっこができるようになってきました。可愛くてかっこいいピンクも絶賛増えてきています。

子どもたちの生活の中で「遊ぶ」こと、「楽しむ」ことは必須であり、力であり、エネルギーの源です、だから、たたかいが好き？いや、たたかっているヒーローや物語りが好きの子どもたちにもその仕方を覚えて十分に遊んでほしいのです、それは、たたかいごっこだけでなく様々な遊びも同様です。子どもだけで遊びを創り上げていくことはとても大切なことですが時に大人が関わり、仲介することによって遊びがより子どもらしく、楽しいものになっていく場合もあるのです。

園長 横山 流